

日韓対立、安保に波及 対北朝鮮連携に不安

2019/8/22 22:00 | 日本経済新聞 電子版



日韓対立は日米韓の安保協力を悪影響を与える（左から韓国の文大統領、トランプ米大統領、安倍首相）＝ロイター

韓国大統領府は22日、国家安全保障会議（NSC）の常任委員会を開き、日韓で防衛秘密を共有する日韓軍事情報包括保護協定（GSOMIA）の破棄を決めた。韓国政府は23日にも、日本政府に破棄の決定を通告する見通し。元徴用工訴訟や貿易管理の厳格化などをめぐり戦後最悪の状態に陥った日本と韓国の対立は安全保障分野に波及。ポンペオ米国務長官は22日、破棄の決定に「失望した」と表明した。

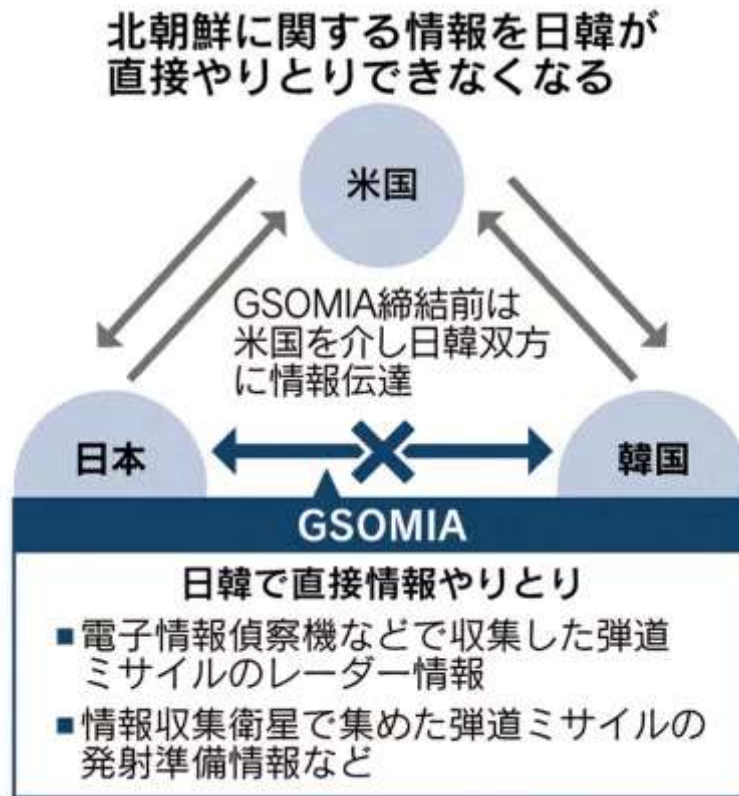
【関連記事】

- ・ [日韓軍事情報協定を破棄 韓国政府が決定](#)
- ・ [河野外相、駐日大使呼び抗議 「極めて遺憾」と談話も](#)
- ・ [東アジアの安定揺るがす 日米韓の三角形に乱れ](#)
- ・ [文政権、米制止振り切る 来春の総選挙へ反日世論あおる](#)
- ・ [米国務長官、日韓軍事情報協定の破棄に「失望」](#)
- ・ [日韓GSOMIAとは](#)

日韓両政府はGSOMIAを通じ、米国とともに北朝鮮のミサイル発射などへの対応で連携を深めてきた。韓国が協定破棄を決めたことで、日米韓が結束して北朝鮮に向き合う姿勢が弱まることへの影響は大きい。

安倍晋三首相は韓国大統領府が日韓GSOMIAの破棄を決めた22日夕、記者団の問いかけに答えることなく首相官邸を後にした。外務省幹部は記者団に「遺憾だ。協定は当然維持されるべきものだ」と述べた。政府関係者は「協定破棄の決定を受けた追加措置は考えていない」と語り、冷静に対応する考えを示した。

GSOMIAには米国の情報を同盟国である日本と韓国が共有し、日米韓3カ国が東アジアの安全保障秩序を主導する意味合いがある。



米国は7月下旬以降にボルトン大統領補佐官やエスパー国防長官を訪韓させて、協定の継続を説いた。22日にはビーガン北朝鮮担当特別代表が大統領府高官と会って念を押したにもかかわらず、韓国は破棄を選択した。

2016年11月に日韓両政府が協定に署名した頃は、北朝鮮が弾道ミサイルや核実験による挑発を繰り返し、東アジアの安保環境は緊迫していた。日米韓の防衛秘密を即座に共有し、危機に対処する狙いがあった。

協定署名後、北朝鮮は17年9月に核実験をした。関係者によると協定による情報交換が円滑にできたという。最近、北朝鮮が繰り返す短距離弾道ミサイルの分析も日韓で得られる情報は異なるとされ、正確な分析につながっているとの指摘がある。

協定がなくなるとどうなるのか。日本は協定の締結前から米国と情報共有の体制を組んできたため、重要な情報が入らなくなるなど実務的な影響は軽微との見方がある。政府高官は

「日本はそんなに影響はない。日米でしっかりやっている」と強調した。自民党幹部は「ミサイルについては米国からの情報もある」と話した。



22日、日本と結んでいる軍事情報包括保護協定の破棄について記者会見する韓国大統領府の金有根・国家安保室第1次長（共同）

ただ協定には情報収集といった実務協力に加え、北朝鮮問題に日米韓が結束して向き合う姿勢を示すという象徴的な意味合いがある。日本は米国とは安保条約を結んでいるが、韓国との間には同様の条約はない。この協定は日韓の間で結ばれている唯一の安全保障上の取り決めといえる。

岩屋毅防衛相は22日の閣議後の記者会見で「日韓双方にとってGSOMIAの枠組みは有益だ。日米韓の連携にも資している」と指摘した。安全保障上の日米韓3カ国の連携に亀裂が入り、協力体制が取りにくくなるのを危惧する声もある。韓国の決定を受け、日本政府関係者は「米国よりも北朝鮮に近寄らざるを得ないほど韓国は苦しいのだろう」と語った。

【専門家の見方】

- ・ 実際の影響は軽微
- ・ 有事の際は米に打撃
- ・ 韓国、政治的に引けず